

復興 ニッポン cha・cha・cha!

被災地の復興のために汗を流し、知恵を出している災害ボランティアの頑張りをお伝えする < 支え合い、助け合い、協働 > のための情報紙です。「みんなは、どんな活動しているの？」今すぐ知りたい、アイデアや取り組み。災害ボランティア最前線からお届けします。(※chaは「care」「help」「act」の頭文字) 発行：仙台市災害ボランティアセンター

◆災害ボランティア・スナップ◆

被災者の方を応援するため、1日でも早く普段通りの生活を取り戻していただくため、活動する災害ボランティア。活動の様子を、写真でお伝えします。

【県外からの助っ人さん、ありがとう!】

災害ボラセンには、近畿ブロックの社会福祉協議会の皆さんが助っ人に入っています。阪神淡路大震災を経験した方も多く、強力な戦力になっています。大阪市社協の奥井雅徳さんもそのひとり。奥井さんの息子、翔平さんは、ガス復旧応援部隊の一員として1か月近く市内のガス復旧工事を担当。帰る際に残ったカップめんを社協スタッフへと寄贈されました。「関西」と「大阪ガス」の表示がとても印象的でした。親子でのご支援に心から感謝します。



【ボランティア・アクション】『届けよう! ボランティアの思いを千羽鶴に』

4月28日(木)、青葉区災害ボランティアセンターで活動された運営スタッフの方々が、ボランティアと一緒に折った千羽鶴を被災地・被災者に届けようと、石巻市と東松島市を訪問しました。

青葉区災害ボランティアセンターは、3月20日に青葉体育館内に開設され、多くの中高生、大学生、シニアの方、会社員、主婦の方がボランティアとして活動してくださいました。ボランティア活動までの待ち時間を利用して、ボランティアの仲間たちと千羽鶴を折り、メッセージを書き入れました。この千羽鶴は、青葉体育館内の避難所と、石巻市の大川小学校と吉浜小学校の子どもたちが合同で勉強している橋浦小学校、そして、68人が死亡された大川小学校の合同供養式典の会場となった飯野川第二小学校にいらした大川小学校PTA、そして、東松島市東名地区の被災者の方々に届けました。きっとボランティア一人ひとりの心のこもった鶴が大きな心の鶴になって羽ばたくことでしょう。それぞれお礼の言葉を頂戴しましたことをお知らせいたします。



石巻市橋浦小学校校長室にて

一日も早い復興を青葉区災害ボランティアセンター一丸お祈り申し上げます。

(青葉区災害ボランティアセンター依頼受付班 菅原ちえ子 4/28)

★ピックアップ・PHOTO★

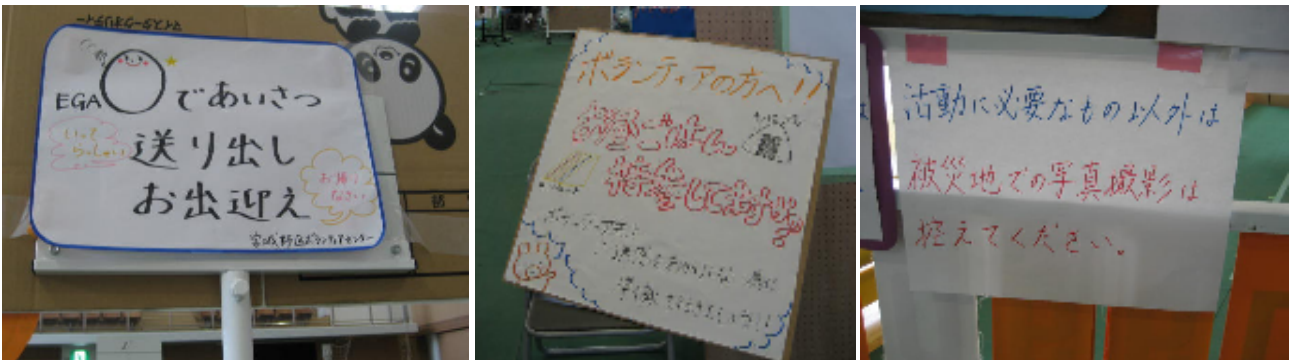
◇◇北部津波災害ボランティアセンター◇◇
気持ちよく活動するための工夫や思いがいろいろ。

●なごみポップ●



活動に出かけるとき、戻ってきたとき、目に入るポップ。受付終了の掲示物にも、「また明日お待ちしております」のひとこと入り。ほっとなごめるポップが、気持ちを上向きにします。

●注意事項もイラストや色づかいで呼びかけ●



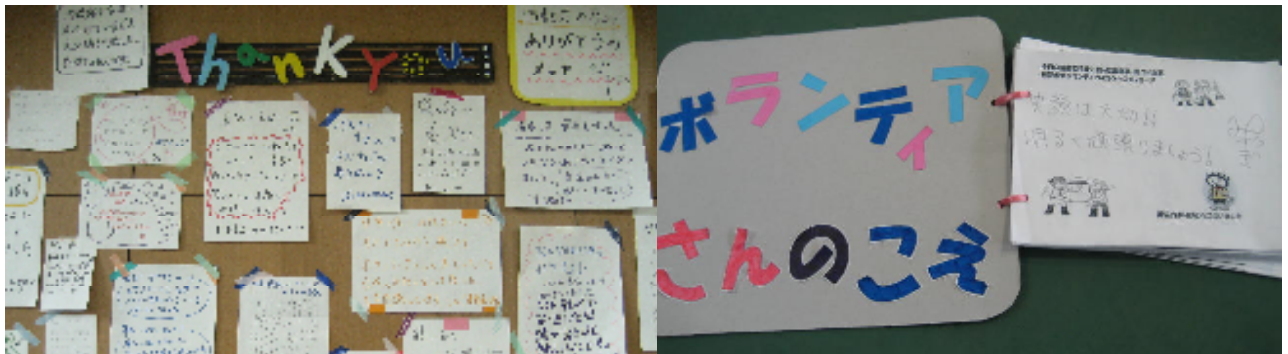
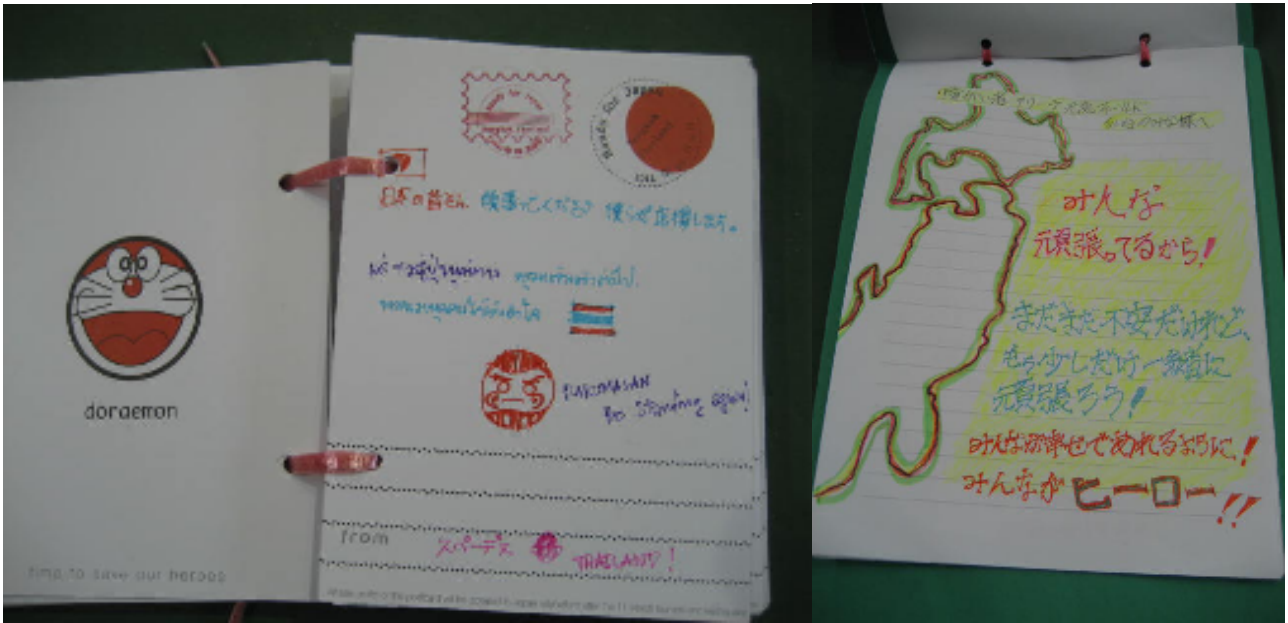
運営スタッフへの呼びかけ、現場で活動するボランティアへの呼びかけなど、心がけることもイラストや色づかいで目にとまるように。

●ボランティアが声をあげやすい心配り●

ボランティアしてみたいの意見や感想をうけとめる「声シート」や「目安箱」。いたるところにある手書きのイラストやクラフトは、仙台YMCAサッカークラブの方々が、ボランティア活動の合間に自発的につくったもの。



●ぞくぞく応援メッセージ●



国内から、海外から、ボランティア活動した人から、ボランティア依頼した人から。センターには、メッセージがあふれています。

現場で活動する災害ボランティアの声をお届けします♪

自分が震災を体験したことで、また、テレビや新聞などで震災の映像を見て、「助けたい」「役に立ちたい」そんな一心で駆けつけてくれた災害ボランティアがいます。今回は、被災者支援の現場で直接聞いた彼らの思いや感じたことをお伝えしていきます♪

【ボランティアの声・こえ】
活動は、自分のためでも
あるんです。

今日は、津波の被害にあった個人宅の片づけに8人で行きました。そのうち3人が女性です。女の人でも、できる範囲でスコップを使っています。私は力仕事ができないので、ヘドロを入れる袋の口を持ったり、不要なものの片づけなど。よく「がれき」という言葉が使われますが、その言葉は使いたくないんです。思い出がつまったものへの敬う気持ちを忘れたくないから。お世話して喜ばれるためには、自分の体もちゃんとしていないと、と献血ボランティアもしています。体は丈夫になるし、ボランティアをして気持ちのいい人と知り合えるのもうれしくて。結局、自分のためにもなるのよね。(主婦 50代 泉区在住)

【ボランティアの声・こえ】
仙台工場に
思い入れがあって。

会社の有志 10 人で、3泊4日で来ました。仙台にある企業の工場とやりとりがあり、思い入れがあったので。今日がボランティア初日で、個人宅の泥のかきだしをスコップで行いました。今夜は秋保温泉に泊まって、筋肉痛をやわらげます。
(女性会社員 30代 東京在住)

運送会社の営業をしています。休みの日曜と月曜にボランティアに来ています。自転車が趣味で、自転車屋に勤めている友達の技術を見て覚え、たいていのものは修理ができます。自転車のギアがおかしい、カギを無くした、空気が漏れた、パンクや故障など、いろいろあります。車軸を締めすぎるとタイヤが回らなくなるから、あまり締めすぎないようにしないと。(北部津波災害ボランティアセンターにて)

【ボランティアの声・こえ】
自転車が趣味なので
一輪車のパンクも修理しています。



【ボランティアの声・こえ】
何もできないのは
くやしから。

テレビなど映像では見ていましたが、臭いは予想していませんでした。現場では、水がたまった引き出しなどを出し、収集車に持って行ってもらう作業をしました。ちょっと筋肉痛になりそうです。ボランティアに来たのは、ゴールデンウィークなど関西からたくさんボランティアが来たのに、近くにいて何もできないのはくやしから。またボランティアしに来ます。
(主婦 30代 宮城野区在住)

北部・南部津波災害ボランティアセンターのブログがスタート!

河北新報社が運営する地域 SNS 「ふらっと」に、北部・南部津波災害ボラセンのブログが登場。5月初めから本格稼働しています。

ボランティアの活動している様子を中心に掲載しております。みなさま是非一度お立ち寄りください。

編集後記

友人からずっと気になっていた避難所に居る叔母さんに会いに行ってきた話を聞く。しばらく食べていないという煮魚を持って、たくさん話を聴いてきたと。そうか、ボランティアをしようと構えなくても身近な人に出来ることからすればいい・・・今私にできることは?と考えたらメールもいいけど絵葉書を送ろう、と思いつく。遠くの避難所にいる叔母と知人にこれまでお世話になったこと、助けられたことの感謝の気持ちを書いて届ける。ずっと気にかけていること、祈っていることを伝えることも大事だから。時間の経過とともにボランティアの内容も変化していく。まだまだ出番はあるはず。まずは自分の心と体を調えることから。(木村津谷子)

発行：仙台市災害ボランティアセンター 広報班 黒田

TEL022-262-7294 <http://www.ssvc.ne.jp/> 当紙が WEB で読めます!

編集：広報ボランティアチーム 遠藤、大谷、木村、佐藤、茂木、山田、佐々木

連絡先：仙台市災害ボランティアセンター Eメール sendai-vc@poppy.ocn.ne.jp

